

発電所用 VCT の納入 (11 kV および 66 kV)

1 概要

2020年までに発送電分離が行われるのに伴い、発電所に電力取引用計量装置の設置が義務付けられた。

オープンタイプの変電所に計量用のVCT（計器用変圧変流器）を設置する場合、通常、しゃ断器と断路器の間に増設することになる。

従来の三相一括VCTを増設するためには、しゃ断器を移設するなどして、VCTの設置スペースを確保する必要がある。

今回、既存の空きスペースに設置可能なVCTとして屋外用分割形モード変流器（CT）、油入変流器（CT）、油入計器用変圧器（VT）などを組み合わせることで計量用のVCTとして構成することができ、停電期間の短縮、改修費用の低減につながる提案活動を行ってきた。

その結果、東京電力ホールディングス株式会社の水力発電所2個所に納入することができた。

2 納入実績

1.1 川中発電所

(1) 納入仕様

- (a) VT：11 kV/110 V 屋内用モード VT
2台（東光高岳形式 PD-5）
- (b) CT：1,000 A/5 A 屋外用分割形モード CT
2台（東光高岳形式 OCA-11BZ）

(2) 納入日：2017年1月

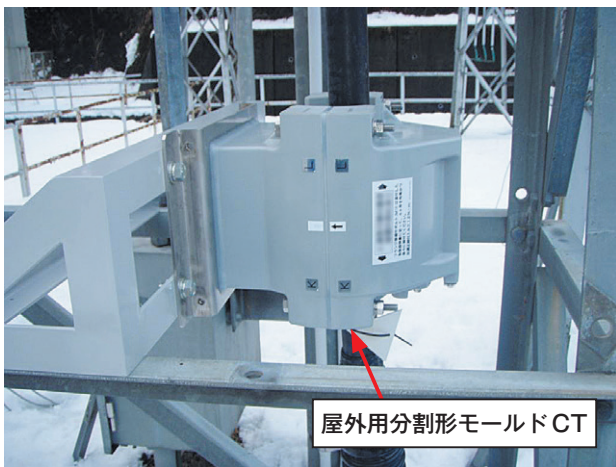


図1 屋外用分割形モードCTの設置状況

※分割形CTにすることで、高圧側母線の引き直しをせずに据え付けが可能



図2 封印用カバー取付状況

2.1 金井発電所

(1) 納入仕様

- (a) VT：66 kV/110 V 屋外用三相油入 VT
1台（東光高岳形式 VDO1-66）
- (b) CT：2,000 A/5 A 屋外用单相油入 CT
2台（東光高岳形式 APC-60）

(2) 納入日：2017年3月

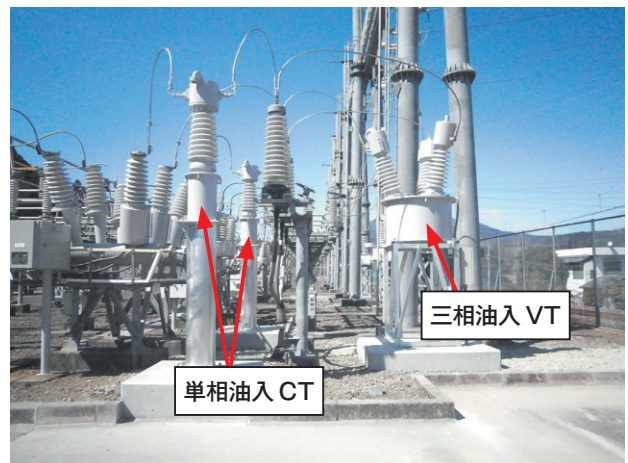


図3 金井発電所の設置状況

3 今後の展開

今後、需要が増えていく発電所用VCTに対して、発電所ごとのニーズに対応できる製品メニューの提案を行っていく。